

トピックス 東京ブロック大会が開催されました

さる9月16日(金)、午後、八王子市総合体育館において、第1回東京ブロック大会(東京都支部としては7回目の大会)が約1050人の参加を得て盛大に開催されました。小生の担当教室からは瑞江鶴の会の有志4名が参加して皆さんと交流いたしました。

北地域研修会開催予定

鶴岡睦子師範(東京都支部理事)による「太極拳に役立つ呼吸法」の研修会は、10月2日(日)、江東区の豊洲駅前の豊洲シビックセンターレクホールで開催されます。約200人が参加する予定で、小生の担当教室からも18人が参加します。

清新鶴の会が新ユニフォームで表演

清新鶴の会(蒔澤徹師範指導)はさる9月18日、清新町コミュニティ会館ホールで、恒例のサークル連合会祭りに参加、25周年記念に新しく作ったご覧のユニフォームで、男女別に表演しました。スペースの都合で女性の演舞だけご覧に入れます。



「中国歴史文化なんでも勉強会」が開講します

さきに雲の手通信第144号(8、9月合併号)でご案内しました標記の勉強会は、9月末現在22名のお申し込みをいただいて、10月19日(水)を第1回として、全12回の予定で始まります。

席に若干の余裕もありますので、ご興味のある方は小生にお問い合わせください。

閑人閑話 オリンピックの光と影

リオのオリンピックもパラリンピックも無事終わりました。日本選手の活躍ぶりも見事でした。期間中、様々な意見がマスコミを賑わせましたが、ちょっと気になる意見が複数ありました。それは五輪憲章の精神から、「五輪のメリットとして国威発揚を唱えるのはおかしい」とする意見でした。つまり、五輪はあくまで選手間の競争であり、国家間の競争ではなく、憲章ではIOCが国別のメダルランキングを作成することを禁じていることを理由としての主張です。

正論とは思いますが、ちょっと実態と離れすぎているかなと感じましたが、肝心の五輪憲章なるものの中身をまったく知らなかったもので、さっそく読んでみましたが、なんと100頁近い膨大な、詳細なものであることにまず驚かされました。

その憲章には、たしかに、「IOCは、入賞者について、国ごとのランキングを作成してはならない」と明記されています。しかし、一方では、「候補都市の立候補にあたっては、当該国政府の保証状が必要である」とも、「運営に当たっては当該国の適切な支援が要請される」とも規定されています。さらには、「開会宣言は当該国の元首が行う」とも明記されています。どう見ても国家的行事にならざるを得ない仕組みです。国の威信をかけて誘致を争うのも毎回のことです。大会では

表彰式のつど、金、銀、銅の選手の国旗が掲揚されますし、特に金については高らかに国歌が演奏されるのもおなじみの光景です。新聞テレビは連日メダルの獲得数を報道しています。たぶんどの国でも同じでしょう。

ですから、“五輪憲章の精神”にかかわらず、実態としては、オリンピックが国威発揚の場になっているし、またそのように利用したいと、どの参加国政府も考え、かつ行動しているのではないのでしょうか。それぞれに、膨大な予算を使い、いろいろと知恵を絞り、強化策を講じているのはむしろ当然で、その行き過ぎた忌まわしい姿が今回のロシアのような国家ぐるみのドーピングであったわけです。憲章には IOC の役割として、「ドーピングに対する戦いを主導する」と宣言しているにも関わらず、今回 IOC はその役割を下部組織である各競技連盟に投げてしまったことはご承知の通りです。（パラリンピックでは、IPC が毅然として、ロシアの全面的な締め出しを宣言し、実行したのとは対照的でした。）

いまさら北京五輪の時の検体の再チェックで、その時のメダルはく奪などが報じられていることも驚きです。

ともあれ、実態としての五輪は国家の威信をかけての行事であり、また、IOC、あるいは世界中のさまざまな事業者にとっては壮大なビジネスの場でもあります。誘致を巡っての不明朗な金の動きなども当然起こるわけです。

また、選手個人にとっても、栄誉のみならず、社会的な地位、そして莫大な富をも約束される場にもなっています。

輝きまばゆいオリンピックではありますが、それだけに影もまた濃いというものなのではないでしょうか。

アーカイブス「雲の手通信」 (再掲・昔のコラム)

健康妄語録 我が家にドライヤーが無い訳は？ 【2008年11月第51号】

鏡を見ると最近わが髪もだいぶ薄くなってきましたが白髪もほとんど無いので、74歳というトシの割にはまあまあ長持ちしているほうだと思っています。別にたいした手入れはしていないどころか、むしろ何もしていないというのが真相ですが、これは、むかし、30歳すぎのころある理髪店の主人から言われたことが大きなヒントになってのことです。

その人によると私の髪は“細くて、やわらかく女性の髪に近い性質なので、ヘアークリームをつけてブラシと櫛で十分整髪できる。リキッドを使いドライヤーで固めるとむしろ毛髪が傷みますよ。”というものでした。それ以来、ずっとそのヘアークリームを家でも理髪店でも使い続けています。理髪店ではやはり速く乾かすためにドライヤーを使われてしまいますが、それはそれとして、我が家ではいっさいドライヤーで乾かすとか、整髪することはしていません。子供たちが同居しているころは我が家にもドライヤーはありましたが、現在はありません。妻ももっぱら自然乾燥で済ませているようです。

若いころは新陳代謝が活発なせいかフケもけっこう出ましたが、これもむかしの話です。毎日洗う必要も感じませんし、洗えば洗うほどそれだけでなく少ない毛髪がさらに抜けることは自明ですので、いまでは2日に1回ぐらいしか洗髪しません。家にいる日はヘアークリームもつけません。そのままです。これが私の髪の手入れ法？で、そのおかげで今日まで、まだ黒い髪が残っているのだと思っています。

いうならば「無過不及」「中庸」の応用ということでしょうか。

体や髪を洗いすぎたりすることの弊害については、この「雲の手通信」の2005年3月第11号

で『清潔はビョーキだ!』、次いで2005年4月第12号で『洗うと汚れる!』と連載しておりますので、ご興味のある方はぜひお読みになってください。

この記事を書いてからすでに8年の歳月が流れましたが、ドライヤーが無いのも、2日に1回しか洗髪しないのもまったく変わりません。頭髪はますます薄くさびしくなってきましたが、でもまあこれからは成り行き任せ、白髪もよし、禿頭もよしという心境です。

左顧右眄 第18話 『肥大化する欲望の正体を探る その3』

第4章. みんな今も生きている

以上動物の進化の歴史の主として初めの部分だけを簡単に辿ってみました。重要なことに気づきました。それは、これらの原始的とも言われる動物たちが、現代でも立派に、生存し続けているということです。進化図では最も低位にあるこれらの動物ですが、進化図のそれぞれの頂点に立つ、人類や、鳥類や、昆虫などと入り混じって、この地球上に立派に現存しているという事実は何を語っているのでしょうか。

いちばん進化したヒトは、いちばん安全有利で、かついちばん幸福なのでしょうか？ トリは？ チョウは？ クラゲは？ 本質的にはあまり違いが無いようにも思えますがいかがでしょうか？

たとえば、クラゲですが、クラゲは体重の95%が水分だそうです。ヒドラ同様、器管としては「口」が中心です。「口」が食べ物を取り入れ消化し、排泄しているわけです。また同時に酸素も取り込んでいます。そこには必然的に動き(蠕動)があります。脳はもちろん、神経索も心臓も血管もありませんが、生存目的に沿って適切な行動を、持続的に行っています。



食べ物を摂取したり、消化したり、泳いだり、毒を出したり、どのような指揮命令系統があるのかわかりませんが、情動(欲望)に基づく一定の行動がとれればこそ、立派に生存し繁殖し続けられるわけですから、その意味ではヒトの一生となんら変わりません。不思議と言えたいへん不思議なことです。

一説によると、神経系統がないクラゲは、『口(腸)』の動きが、体の中の水管を経路として他の器官に伝導されるのであり、それがクラゲという生命体の根源的な情動(欲望)の指示経路であるということです。(現代的に言えばそれは『経絡』に相当するものであるということです。)

ヒトの場合、恒常性維持機能(ホメオスタシス)は間脳視床下部にあるとされ、いわゆる自律神経やホルモンの働きによってうまく自律的に作動しているとされていますが、クラゲの場合は、それを「口」が担っているということなのです。

交感神経と副交感神経のはたらき

器官	交感神経	副交感神経
瞳孔	大きくなる	小さくなる
涙腺	涙が出ない	涙が出る
唾液腺	量が少なく、濃くなる	量が多く、薄くなる
気管	広げる	狭める
心臓	拍動が速くなる	拍動が遅くなる
冠動脈	ちぢむ	ひろがる
皮膚	ちぢむ	ひろがる
血圧	高くなる	低くなる
胃腸	活動をおさえる	活動がすすむ
消化管	消化液の分泌を抑える	消化液の分泌を高める
胆のう	胆汁の分泌を抑える	胆汁の分泌を高める
膀胱	開く(排尿をおさえる)	収縮(排尿する)
立毛筋	収縮(鳥肌がたつ)	ゆるむ
汗腺	汗が濃くなる	汗が薄くなる
陰茎	血管が収縮する(射精)	血管が拡大する(勃起)
子宮	ちぢむ	ひろがる
白血球数	増加する	減少する
呼吸運動	促進する	抑制する

第5章. 自律神経の独自性

神経には大脳が制御する運動神経と知覚神経(感覚神経)のセットと、脳幹が制御する自律神

経に大別されることはよく知られています。

前者は自分の意志で(つまり大脳判断、指示によって)体を動かす神経系ですが、後者は自律的に、かってに、特に内臓や循環系の臓器を常に最適状態にコントロールしている神経系です。つまり、恒常性維持機能(ホメオスタシス)にかかわる重要な神経系が自律神経系です。

自律神経で制御されている内臓や器官も、部分的には自分の意志でコントロールできる仕組みを持っていることは、ヒトという生物のたいへん玄妙なところですが、基本的には、生存のための基本的な制御は、大脳とは関係なしに、別系列の自律神経系が担っているということです。

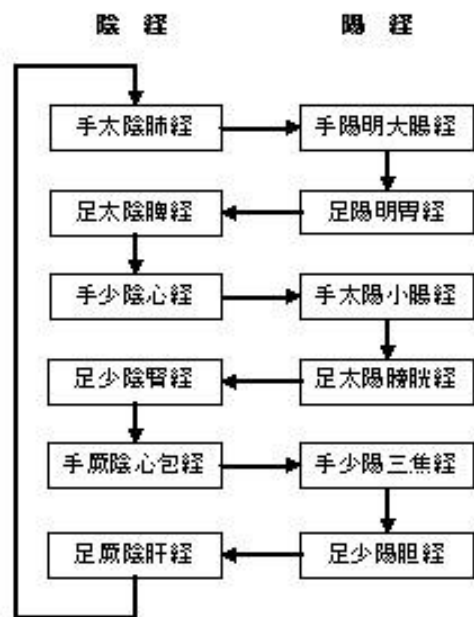
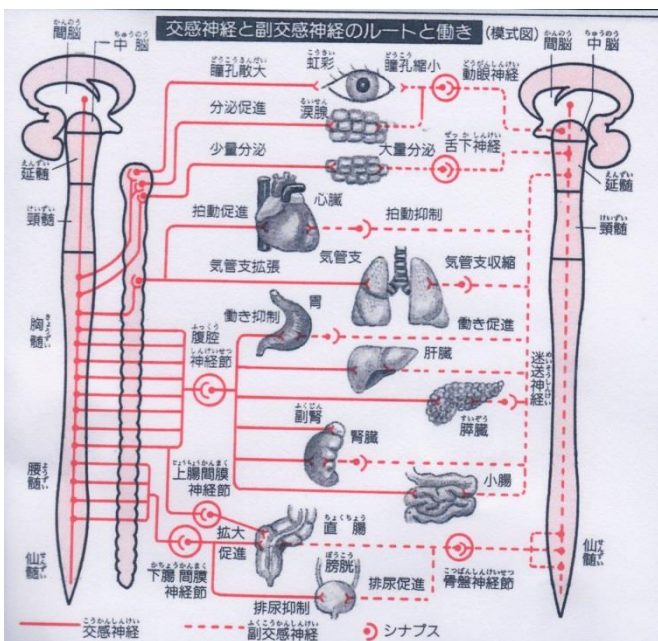
つまり、進化論的には、腸管に由来した、先に出来た、神経系が自律神経系であるということにほかなりません。また、この機能は中国医学の根源にある経絡理論とも相通じるものがあります。

というか、経絡理論は古代中国で構築された壮大な概念ですが、その時代には彼らは実態としての神経系を認識していたわけではありません。正確には「神経」という言葉も無かったのです。

「神経」という言葉は、江戸時代に日本で作られた和製漢語です。つまり 1771 年に杉田玄白、前野良沢らが、腑分けを見学するとともに、オランダ医学書を『解体新書』として翻訳するにあたって、その中の ZENUW という言葉を、「神気」と「経脈」とを合成させて「神経」という訳語にしたのが由来で、これが、その他のいわゆる「明治漢語」とともに当時の中国や朝鮮に逆輸入されたものです。(以下次号につづく)

【下左図；「自律神経のはたらき」

下右図； 経絡の「十二正経」の一覧と流れ】



旅をうたい拳を詠む

夏から秋へ

寅さんも六輔巨泉もみな逝きて昭和は遠しわが思い出も

久々に仏蘭西料理を楽しめど胸やけすれば陀羅尼助飲む

五輪あり甲子園あり終日を冷房効かせてテレビ三昧

勝あれば負けるもあるは定めなりされど無情なあの一球が
勝運は女神の心のゆらぐままあっちへ行ったりこっちへ来たり

夕されば樹間を抜ける風涼し日比谷公園は都心のオアシス
台風の残せし風が 10 階のわが居を抜けて秋となりたり